

STAFF

時間学研究所は現在、総勢約30名。所長、専任教員5名、研究・事務スタッフおよび名誉所長、客員教授で構成されています。そこに山口大学内外の教員約100名も様々なかたちで関わっています。



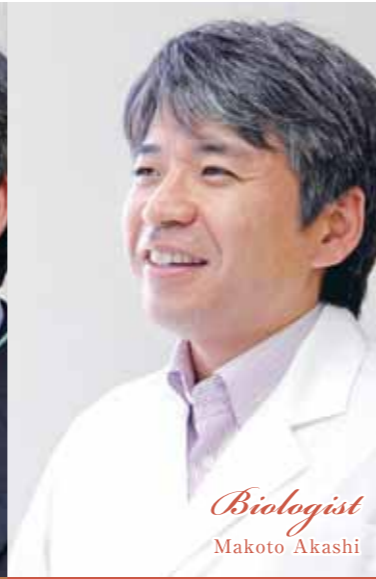
Physicist
Shoichi Kai



Astronomer
Kenta Fujisawa



Sports & Neuroscientist
Makoto Miyazaki



Biologist
Makoto Akashi



Philosopher
Takuo Aoyama



Sociologist
Hiroki Migita

所長 甲斐昌一

PROFILE

1947年生まれ(宮崎県出身)。1974年九州大学大学院工学研究科(修士)修了。1977年博士課程単位取得満期退学(工学博士)、九州大学助手。1979年スタンフォード大学ポスドク。1982年九州工業大学助教授、1988年同教授、1994年九州大学教授、2012年3月九州大学定年退職(九州大学名誉教授)九州大学特命教授を経て2014年6月より現職。

RESEARCH

非線形力学や複雑科学を専門としています。なかでも自然界にみられる時間リズムや空間パターンがどのような機構で形成され、どんな機能を果たしているかを研究しています。これらの形成機構やアトラクターの普遍的な性質を探り、そこに見られるリズムやノイズの機能的役割を明らかにすることを試んでいます。

所員 山口大学時間学研究所教授 藤澤健太

PROFILE

1967年生まれ(大分県出身)。東京大学理学部天文学科卒業。東京大学大学院理学系研究科を修了。博士(理学)。宇宙科学研究所COE研究員、通信・放送機構研究員を経て国立天文台助手、山口大学助教授・准教授、2010年4月より現職。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

RESEARCH

電波望遠鏡を使って天体を観測する研究を行っています。研究対象は星とブラックホールで、これらの天体の研究を通じて、宇宙の現象を時間を軸として考察しています。

所員 山口大学時間学研究所教授 宮崎 真

PROFILE

1971年生まれ(埼玉県出身)。早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科修士・博士課程修了。博士(学術)。国立リハセンター流動研究員、早大助手、助教、高知工科大准教授を経て、2011年11月より現職。平成23年度 文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。

RESEARCH

心理物理学的手法と神経生理学的手法を用いて、時間知覚や運動タイミング制御といった脳の時間情報処理の機序を探求しています。運動音痴の反動でスポーツスキルに興味を持ち、こういった研究テーマに辿り着きました。

所員 山口大学時間学研究所教授 明石 真

PROFILE

1973年生まれ(北海道出身)。京都大学農学部卒業後、京都大学大学院理学研究科(西田栄介研究室)へ進学。日本学術振興会特別研究員(DC2→PD、SPD)を経て、佐賀大学循環器内科学教員に赴任。2009年10月より現職。2010年、日本時間生物学会学術奨励賞受賞。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

RESEARCH

24時間社会に生きる現代人の健康のために、体内時計の理解は不可欠です。分子機構の理解を目指した研究を中心に、ヒト体内時計の測定法なども目指しています。

所員 山口大学時間学研究所准教授 青山拓央

PROFILE

1975年生まれ(埼玉県出身)。県立浦和高校、千葉大学、同大学院(博士課程単位取得)、日本学術振興会特別研究員などを経て、2006年4月より時間学研究所教員。2006年、日本科学哲学会石本賞(第1回)を受賞。2011年、文部科学大臣表彰科学技術賞を時間学研究所グループにて受賞。

RESEARCH

哲学の観点から、時間、自由、言語、心身関係をおもに研究しています。時間分析のための思考実験として、タイムトラベルの研究も(これはやや趣味的に)行っています。

所員 山口大学時間学研究所講師 右田裕規

PROFILE

1973年生まれ(島根県出身)。京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員、大谷大学助教を経て、2012年4月より現職。

RESEARCH

時間にかかわる制度や人びとの意識・営みは歴史的にどう変化してきたかという問いについて社会的な視点から研究しています。とりわけ主観的に取り組んでいるのは時間意識・制度の近代的再編というテーマです。

GROUP

研究体制は5名の専任研究員と4つの研究グループに分かれ、生物学・医学・社会学・物理学・哲学・文学・理学・工学・心理学・経済学・文化人類学など、数多くの分野の研究者が参加しています。

※時間学セミナーの開催など、各研究グループの活動についてはホームページをご覧ください。

第1 研究グループ

社会的時間と人間的時間の調和の研究

現代社会はグローバル化や情報化が進んだ結果、社会的時間と人間的時間との乖離が激しくなっています。この研究グループでは、社会的時間と人間的時間を科学的に解明し、両者を調和させることを目指した研究をしています。

第2 研究グループ

生物に刻まれる時間と環境変遷に関する研究

悠久の時間の中で変化する地球環境と生物進化は、互いにどのように作用してきたのか。その相互作用は生物形成にどのように影響するのか。原動物からマウスまで様々な生物の観察・実験から、生物にとって時間とは何かを明らかにすることを目指しています。

第3 研究グループ

多文化圏における時間表象の研究

時間をいかに表象するかという問題は、文化や制度と不可分の関係にあります。多文化における時間表象の違いについて、思想・文学・言語学などの観点から検討を加えるとともに、その概念的基盤の哲学研究と、時間芸術への考察を行います。

第4 研究グループ

時間に関する個別融合分野の研究

様々な学問分野において、時間は重要な概念です。そして学問分野ごとに時間の概念も少しずつ違っています。この研究グループでは、医学、農学、物理学、工学など多彩な側面から時間を考察し、時間学という学問の可能性を追求しています。